

平成26年度 第2回過疎問題懇談会

○日 時 平成27年3月18日(水) 17:00~19:00

○場 所 砂防会館別館(シェンバツハ・サポー) 3階「六甲」

○出席者

(構 成 員) 宮口侗迪 座長、青山彰久 構成員、安藤周治 構成員
飯盛義徳 構成員、岩崎憲郎 構成員、小田切徳美 構成員、
佐藤宣子 構成員、本田節 構成員、横道清孝 構成員

(総 務 省) 原田地域力創造審議官、佐藤地域自立応援課長、
野竹人材力活性化・連携交流室長、齋藤過疎対策室長

○議 題

1. 過疎地域等における今後の集落対策のあり方に関する提言(案)について
2. 地域おこし協力隊全国サミット開催結果概要等について

(1) 説明事項等

資料1~4について、事務局から配付資料に基づき説明を行い、その後、意見交換を行った。

(2) 主な意見等

<議題1>

- ・ 過疎地域の存在意義や価値について、より明確に記述すべき。
- ・ 集落と集落ネットワーク圏の関係について記述した部分が大切である。集落が基本であって、個々の集落でできないことをネットワークで取り組むという点が重要。
- ・ 暮らしに関する取組のネットワークと、なりわいに関する取組のネットワークとで範囲が異なることはあり得る。単に地域をネットワークで埋めれば良いというわけではなく、地域の実情にあったネットワークを考えなければならない。
- ・ 特に震災後は、自然エネルギーの活用の取組も見られるところであり、地域コミュニティ組織の取組の例として、本文中でも言及すると良い。
- ・ 提言のはじめに、過疎地域の現状と可能性として一項目を設け、過疎地域が持つ、人と人が支え合う暮らしや、新しいライフスタイルの可能性について書くと良い。
- ・ 今回の提言では、対象となる地域コミュニティ組織全てについて調査した結果が盛り込まれており、非常に有意義である。また、都道府県の役割についても踏み込んで言及できている。

- ・地域コミュニティ組織が作る活性化プランについて、行政がつくるような文書形式のものだけではなく、ポンチ絵やキーワードのようなものでも作成することは有意義であると指摘している点は重要だ。ボトムアップで作るプランとは、本来、そのようなものである。
- ・項目の見出しが事務的であるので、求められている取組が明確になるような表現としてはどうか。
- ・地域の合意形成の中心となる人材が減ってきている。地域と地域、人と人をつなげる役割をもつ中間支援組織を作ることが必要だ。中間支援組織の先進的な事例について、本文中で取り上げると良い。
- ・地域コミュニティ組織の法人化の必要性などについては更に記述が必要だ。
- ・都道府県の重要な役割として市町村への情報提供がある。そのことについて記述すべきだ。

<議題2>

(地域おこし協力隊全国サミットに参加した構成員からのコメント)

- ・地域おこし協力隊のパワーを感じる集まりであった。地域おこし協力隊の活動事例の紹介もあり、集まった隊員には、これからはみなさんがオリジナルに考える必要があるとお話した。
- ・全国移住促進センターは、念願の全国ワンストップ窓口である。今後、各都道府県が設けている移住相談窓口や、ふるさと回帰支援センターなどと連携をとっていただきたい。
- ・地域おこし協力隊全国サミットは、表現できないほどのすさまじいエネルギーで感激した。若者のエネルギーが日本を変えつつあると思う。もっとたくさんの人に隊員たちのPRを聞いてほしい。